

彙 報

- 臨時評議員会 昭和24年8月13日(土) 東大言語学研究室にて
評議員：浅井惠倫、高津香繁、辻直四郎、服部四郎、松本信広；幹事：大泉百合子、小林智昭平、三根谷徹出席。

(1) 学術会議会員選挙規則に關する8月27日(土)の公議会に対する協議。(2) 言語研究第16号を故小倉進平前副会長の追悼号とすることを決定。(3) 会費は13~15号で400円とすること。(4) 本年度講演会は會員研究発表会とし、11月5日(土)に開くこと。(5) 新村会長より金堂ヲ再世断附金受領を承認。

- 第二回會員研究発表会

昭和24年11月19日(土) 午後1時~5時

東京大学法文経2号館37番教室にて

研究発表

長野県水曾池子におけるサ行イ音便形とヨに終る命令形の分布

池上 二郎 氏

言語のフォークロア

池田 弥三郎 氏

條件反射としての言語活動

大久保 忠和 氏

ルッター独語における否定の特色

塩 谷 鏡 氏

琉球語より観たる古代日本語

宮 良 当 壯 氏

會員研究発表会は昭和15年11月2日に開かれただけで中絶していたが、久しく松岡詔の発行もまつていたので、本年度講演会を研究発表会にかえ一敬會員より発表希望を募ったが、応募者は予想よりも少なかった。会場の関係で東京在在者に限られるようになったからであろう。その少数の応募者にも全て発表の機会をよめるだけの時間がなかったので上記の五氏にお殿した。

会は京都より上京された泉井久之助評議員の席会の辞に始まり、同評議員の洗練された司会により順調に進行し、質疑応答も活発に、定刻服部四郎評議員の閉会の辞に終ったが、発表時間30分質疑応答10分という時間の制限と発表内容を調和させるよう努力が捧われればこの研究会の意義を充分に発揮させることができよう。

- 會員消息

知里真次保氏 「アイヌ語の研究と辞書編纂」で北海道新聞社オミコ文化賞(24年度)賞
詩と副賞(5万円)を受けられた。

浅井惠倫氏 学界視察のため渡米(24年12月-25年4月)

- 会 費

昭和25年度会費(16号~18号誌代を含む)金400円振替又は小島甚にてお送り下さい。